

地域づくり計画と 見直しについて

2017年9月29日

登米地域づくり計画見直し作業
第1回委員会講義内容

特定非営利活動法人 故郷まちづくりナイン・タウン
事務局長 伊藤寿郎

講師 プロフィール 伊藤 寿郎

昭和35年3月3日中田町石森生まれ

地元の高校を卒業後、中田町商工会に勤務、東和町、涌谷町、佐沼、登米中央商工会で、経営指導員として主に都市計画に基づいた中心市街地活性化・まちづくり事業担当

平成20年、依願退職。民間起業や、外資系保険会社のコンサルタント。

平成22年、現在のNPOを手伝ってほしいと理事長に誘われて関わり、次年度計画を作成したときに大震災が起きた。

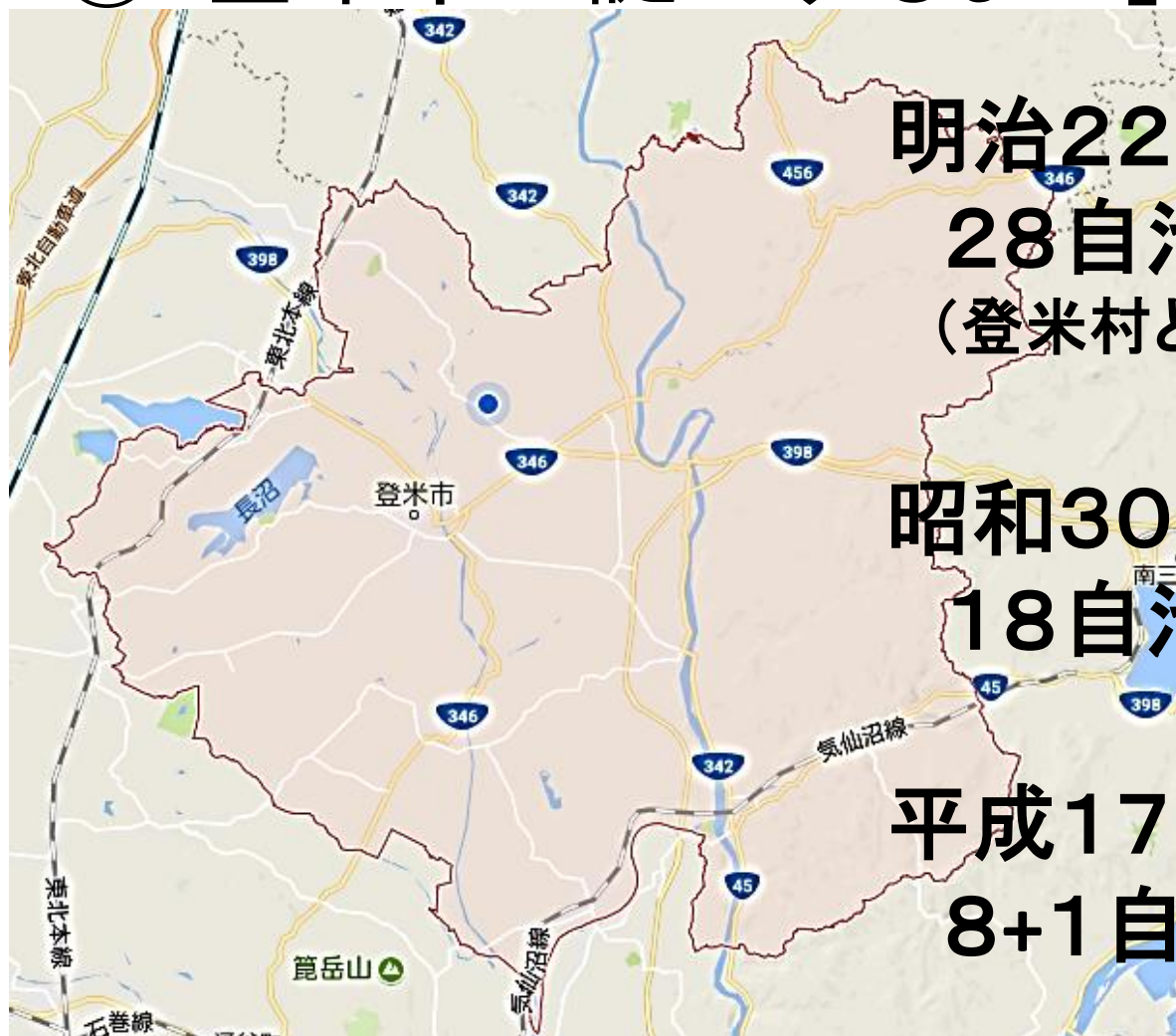
それからは、国際NGOの登米事務所として支援団体やボランティア受け入れと現地支援に奔走。現在はNPO専門職。

沿岸被災地でこれまでの経験を生かした地域づくり実践。

平成25年、登米市内での地域づくりに軸足を移して、「地域に新しい価値を創り、高める」というスローガンのもと、地域資源を活かした再生の取り組みを開始。

1. 何故、コミュニティ協議会が
「地域づくり計画」を持つことになったのか

①「登米市が誕生するまで」



明治22年頃の大合併
28自治体⇒18自治体
(登米村と日根牛村で登米町)

昭和30年前後の大合併
18自治体⇒8自治体

平成17年の大合併
8+1自治体⇒1自治体

②登米市の育て方

協働= 各セクターの良い所、
強みを生かした地域
づくり。

②登米市の育て方



- ・地域包括支援センター
- ・地域支援員
- ・まちづくり基本条例
- ・集落支援員
- ・がんばる交付金
- ・21地域コミュニティ
- ・地域づくり計画
- ・官民連携
- ・小規模多機能自治

学校・
消防団・法人会・
各種団体
老人会・婦人会など
地域団体

地域・

地域コミュニティ

協働4づくり事業
(条例・人・拠点・計画)

会社・事業所
・NPO民間団体
農協・商工会・土地改良区など産業団体

行政・
福祉団体
など各種団体

②登米市の育て方

協働＝【各セクターの自立】

団体が法人として認められること

(・規約・会員・役員・目的・事業・会計基準)

公民館等の地域単位

地域は共同体(仲間づくり団体)から
機能体(目的達成法人)へ

2. 【地域づくり計画の基本的な役割について】

地域づくり団体が、機能体としての
法人組織になるための訓練

- ①新しい価値観 = 受入の柔軟性
- ②地域の役割 = 命を守る
- ③計画が形骸化しない工夫 = 見える化
- ④計画の基 = 正しい数値把握

3. 【計画の見直し作業とこれからの活かし方】

①見える化と整理

- ・ワークショップのメリットを生かす。(少人数型WSで実施)
- ・普段使いできるようにする。

②主人公はだれかを常に考えよう。

- ・誰のための計画で、誰のために見直すのか？

③市民参加を促すために。

- ・事前調査は声を聴くため。(アンケートより生の声)
今後声も聴いて活動を進める。

④安心のために数値を把握しよう。

- (例)行政区内の年齢別人口＝登米市開示データ参照
- (例)まち歩きで、資源を確認して、地図に落とす。

3. 【計画の見直し作業とこれからの活かし方】

⑤量から質への転換について(一例)

| | 量の評価の時代 | 質の評価の時代 |
|-------|--------------|----------------|
| 消費・流通 | 大量消費・大衆化・高速化 | 少量多品種・個別・コンビニ化 |
| 製造 | 大型機械・規模拡大 | 専門化・高度化 |
| 仕事 | 一次産業、終身雇用 | サラリーマン化・非正規雇用 |
| メディア | 固定・全体紹介・一方向 | 移動、個人発信・紹介、双方向 |
| 地域づくり | 行政主導・福祉型 | 協働・官民連携・自立継続型 |

⑥若い人がいなければダメへの反論

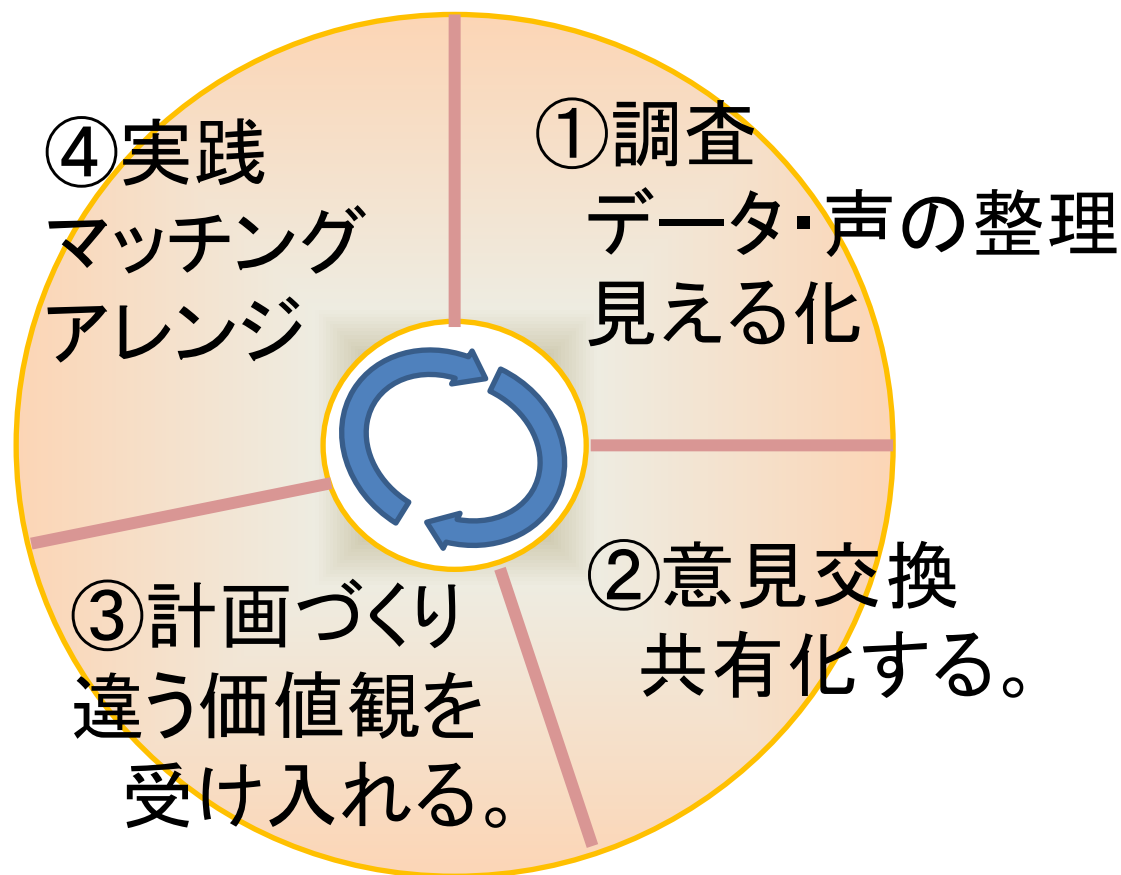
質を高める＝多様な価値が必要

経験と実践の協力(支え合いの価値)

3. 【計画の見直し作業とこれからの活かし方】

⑦地域づくりの現場では、どうすれば質を高めることができるか？

キーワード【伝えやすいか？ ワクワク感があるか？】



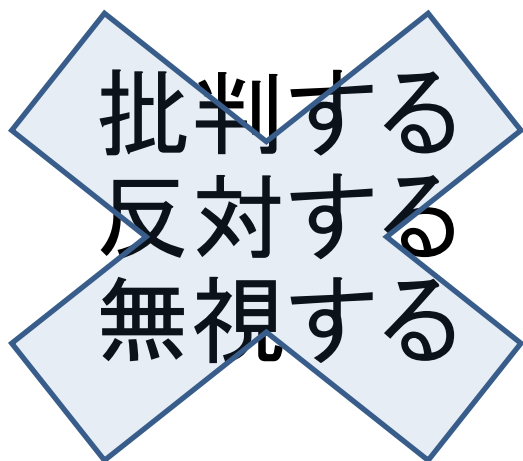
3. 【計画の見直し作業とこれからの活かし方】

⑧おわりに

ワークショップ

失敗する法則

成功する法則



笑門来福